

開
会
行
事平成29年度青森県高等学校PTA連合会 五所川原大会
『手をつなぎ想いをつなぐPTA』
「すべては明日を生きる子供たちのために」

若宮大会長あいさつ

6月9日、抜けるような青空のもと、五所川原市ふるさと交流圏民センター「オルテンシア」に県内各地からおよそ440名が集い、平成29年度青森県高等学校PTA連合会五所川原大会が開催されました。早くも夏を思わせるような熱気の中、五所川原農林高等学校の立佞武多倶楽部・五所川原高等

学校の立佞武多同好会による素晴らしい演奏が私たちを迎えてくださいました。

西北地区協議会副会長である安田博氏による開会宣言に続き、若宮佳一大会長の挨拶がありました。簡単な自己紹介で会場の空気を和ませてから、親子の絆について、親の真剣な姿が、必ず子どももの真剣な態度につながっていくのだと話されました。さらに縁あって出会った「人と人とのつながり」の大切さに触れ、親子のつながり、家族同士のつながり、学校と親とのつながりに加え、今日のこの出会いを新たなつながりに広げようと結ばれました。

続いて西北地区協議会会長である笹森和樹実行委員長が、今回の五所川原大会の開催に向けた意気込みと歓迎の言葉を語られました。

授賞式では、受賞者を代表して青森県高等学校PTA連合会前副会長である野上淳一氏に感謝状が、木造高等学校前西北地区研修委員長である佐々木百香子氏に表彰状が授与されました。続いて、退任校長を代表して弘前中央高等学校

前校長である三上聡氏に感謝状が、前渉外主任を代表し弘前南高等学校の工藤和夫氏に表彰状が授与されました。

最後に青森中央高等学校PTAに広報紙コンクール最優秀賞がそれぞれ授与されました。

受賞者代表謝辞では、青森県高等学校PTA連合会前会長である大溝雅昭氏が、これまで支えて頂いた事へのお礼の言葉とともに、今後益々少子高齢化が進む中、求められる人材とは、1、マニユアルにとらわれない。2、どんな時でも諦めず最善をつくす。3、指示を待たずに率先して動くといった態度が必要になってくる。その為には、子どもたちの学校生活や家庭生活での意識づけが大切だと話され、これからの県高P連の目指すべき姿にも言及されました。

次に佐々木郁夫青森県副知事と和嶋延寿青森県教育委員会教育次長、成田昌造青森県高等学校長協会会長からお祝いの言葉がありました。佐々木郁夫副知事は、今大会のテーマ「すべては明日を生き



表彰状代表受賞者 木造高校 佐々木百香子氏

る子供たちのために」県がなすべき施策として、若い人材の首都圏流出をどのように防ぐのか、地元若い人材をどのようにして残すのが課題であるとおっしゃられました。和嶋延寿教育次長は、教育の政策として、1、学ぶ意欲の向上。2、教育環境づくり。3、人材育成の3つの目標を掲げられました。成田昌造会長は、家庭という場所と学校という場所それぞれにおいて、子供たちが自分自身の力で、決断する力、判断する材料を養うことが大切だと話されました。

最後に長尾孝紀五所川原市教育委員会教育長より歓迎の言葉が述べられ、開会式は盛会のうちに終了いたしました。

(調査広報委員長
畑中 了)

記念講演

チェック つま先の向き



テリー伊藤氏の下で放送作家として活動を開始され、バラエティーを中心にドキュメンタリー・スポーツ・報道など幅広く手がけられ、「天才たけしの元気がでるテレビ!」「笑っていいとも」など多数の番組を担当なさり、現在は秋田公立美術大学客員教授としてもご活躍の、放送作家田中直人氏をお迎えし記念講演が行われました。

「部屋と私とYシャツ」をBGMに、「津軽と私とシンボル」といかにも田中氏らしい始まりで、さらには「津軽」と「岩木山」の連想からバックスクリーンには「元大相撲力士岩木山関」の写真が映し出され、会場からは笑いが起こり雰囲気は一流でした。

ご自分の幼少期の思い出や、ご子息の思い出を語られました。素直で反抗期が無かったご子息ですが、幼少期に一度だけ「違う」を連発し大泣きしたエピソードを話されました。後楽園遊園地でコーヒーカープと一緒にのつたところ、「違う違う」と大泣き。一緒に乗りたいだろと思った親の気持ちと、外から手を振ってほしかった子どもの気持ちが違う方向を向いていたのでした。日ごろから子どもの気持ちを察しているつもりになっていたことを改めて感じ、子どもの言動にもっと注意しチェックすることがいかに大切かを考えさせられたそうです。子ども

もに接する時、子どもの考え方がより理解できるポイントは「含蓄・余韻」だと示されました。

仕事面でも3つのことに注意しチェックなさっているそうです。

①視聴率は初見 ②テレビは映像 ③東京だけの放送じゃない

何度も映像を見ていると、見慣れてしまい、くどくなりがちなので、チェックをするのだそうです。視聴者は今後継続して見るかどうか初見で決めるもので、そのためには最初が肝心。更に動画であること、様々な土地柄も大きなポイントであることなど注意が必要と述べられました。

毎日子供と接し、見ていると変化に気付きにくいですが、言動に気をつけていると、つま先がどっちを向いているか分かるもの。間違った方向を向いていたらずいずつ修正してあげるのが大人の仕事である。そのためには、「学校・家庭・地域」の協力が大切で、自分一人では気づかないことも、みんなで協力することで早い時期に気づき成長を見守ることができると。

子どもの持つっている可能性を存分に引き出し成長を促し、さらには周りの大人も同時に成長する、これが理想である。子どもの様子は見守っているが、言動まではなかなか注意が及ばず可能性を引き出せないでしまうこともあると話されました。

田中氏の講演では、親としてすべきことをはっきりと明示された

青森県高等学校PTA連合会 五所川原大会「歓迎セレモニー」

五所川原高校 立佞武多同好会

部長 山本 玲可

今回、青森県高等学校PTA連合会五所川原大会の歓迎セレモニーに、五所川原高校立佞武多同好会の一部と有志生徒で組んだ離子メンバーで参加させていただきました。五所川原農林高校立佞武多俱樂部の方々と同好で大会会場のオルテンシア入り口にて、離子の演奏で参加された皆様をお出迎えをしました。



放送作家 田中直人氏

ようで、気持ちが引き締まる思いでした。まさに大会テーマにふさわしく、手をつなぎ想いをつないで「学校・家庭・地域」が一体になってPTA活動を行うことで、子どもたちが大きく成長するのだと改めて思いました。

(調査広報委員 長瀬 純子)

五所川原高校の離子の練習は、4月から週に1回のペースで行ってきていますが、中心となる三年生が課外練習のため、なかなか練習に参加できないこともあり、練習不足がとても心配でした。また、笛の担当は4人と少人数であったため、途中で途切れさせることなく演奏できるか不安がありました。

本来の祭りでは、立佞武多の運行の中で立佞武多や踊りの方が目立ち、離子だけがクローズアップされることはあまりなかったのですが、今回は離子の演奏だけで歓迎するということで大変緊張しましたが、五所川原農林高校の生徒の皆さんにも頑張って演奏していただいたお陰で、立佞武多の良さと、離子の持つ魅力を少しでも参加された方々にお伝えることができましたのではないかと思います。



生徒発表

少林寺拳法

五所川原第一高等学校
少林寺拳法部主将 鳴海 汰一

まず、青森県高等学校PTA連合会五所川原大会に私たち五所川原第一高等学校少林寺拳法部を呼んでいただきまして、ありがとうございます。

演武披露に向けて練習した三日間は、会場のステージの広さを想定して配置を決めたり、演武を見やすいように調整したり、客観的に考えながら練習しました。また、私たち少林寺拳法部のモットーである「常に最高の自分を出す」を行うため、本番当日で気迫のある演武を披露すべく部員一丸となり練習に励みました。本番の時間は十五分程度でしたが、今までの練習の成果を発揮することができました。観客の皆さまに、自分自身の成長のために日々精進している姿を見てもらい、何かを感じていただけたと思います。

研究協議

学校と協働し子供たちを支援するPTA活動

五所川原大会コーディネーター・清野悟氏（五所川原農林高等学校PTA会長）の自己紹介、助言者、発表者三名の紹介につき、研究協議が進められました。以下、要点をまとめてみました。

今大会のテーマである「手をつなぎ想いをつなぐPTA」すべては明日を生きて子供たちのために」を私たち子供の視点で考えると、やはり大人たちの助けがあつてこそ私たちは生きていけると思います。各学校のPTA会員の方々と教員の皆さまが、今大会を成功させるために準備している姿を見て、大人たちの力と想いを感じる事ができました。また、私たちの演武が大会のテーマを実現するきっかけとなってくれれば嬉しく思います。また、このように、大人と子供が互いに見つめあう機会がこれからも増えてくれればいいと思います。

私たち少林寺拳法部は、六月末に東北大会、八月には全国大会に出場します。大会で結果を出すことも大切ですが、日々、自己変革を目指し、これからも頑張っていこうと思います。



五所川原第一高校 少林寺拳法部

『PTA、同窓会、後援会の思いを卒業生に』 弘前東高等学校PTA会長 木村 龍悦氏

13年前、校長より「社会人の心構え」について講演を依頼されたOBの、よりわかりやすくするために「劇」にしてみました、という発案から寸劇を上演することとなりました。以来、同窓会、後援会、PTAが劇団を組織し「社会人としての心構えを伝えたい」という思いで「卒業生に送る寸劇」が制作され、披露してきました。舞台はその年の卒業生の就職先とし、劇中、新入社員が次々と難局に直面するも、それを乗り越えられるよう励ますストーリーとなっています。当初は、同窓会、後援会による小劇団でしたが、現在では現役PTA、教職員も参加し、上演時間も40分を超え、笑いあり、感動あり、今では歴史とした劇団となっています。

木村会長は「本校に関わった方々が長きに渡り、手を携えて卒業生に大切なものを教えて下さることは、本当に有り難い。この思いが、つぎの世代に受け継がれることを願い、今後も活動を続けていきたい。」とまとめました。



発表者のみなさん

『有徳の人づくり ～地域の生涯学習の場としてのPTAを考える～』 八戸工業高等学校 保護者と教職員の会会長 橋本 修氏

本校では母親・研修委員会が毎年生徒会館の清掃活動を行っておりますが、その際、OB・OGの方々がガラス磨きの技術指導者として参加して下さいます。こういった繋がりによってPTAの世代間の交流が生まれ、伝統が自然と伝えられるようになっていきます。学校に対するPTA最大の支援活動は、毎年十月に開催される「八工祭」での模擬店です。PTAに代々伝わる秘伝レシピで作られた「特製豚汁」は大好評のためすぐに完売します。準備期間から、会員の絆を深め、PTA活動に参加するきっかけとなります。PTA活動の魅力は、学校で子どもの姿を見ることができるところです。また、先生方と交流ができること、さらに、会員同士の交流により、子育ての悩みを共有し、解決の鍵を見つける機会になっています。橋本会長は有徳の人づくりのためには、まずは、PTA会員が生涯学習の場としてPTA活動に参加すること、さらに地域活動にも積極的に参加することにあるとして、発表を結びました。

『学校と協働し子どもたちを支援するPTA活動 ～農業高校でのPTA活動～』 三本木農業高等学校PTA会長 成田 一郎氏

三本木農業高校独自のPTA活動として、出身中学校別の地区会場で、担任教師と膝を突き合わせ、会食を楽しみながら情報を交換する「地区懇談会」は保護者の参加率も高い非常に有意義な取り組みになっていると思います。「PTAの目的は？」それは紛れもなく子ども達の健やかな成長であると言えます。本校PTAは「生徒のための父母と教師の会」「子ども達のために教師と保護者が手を組みましょう」をモットーに、全校田植え競技会、三農祭などに積極的に関わっております。

成田会長は活動を通して保護者、子供たち、教員がお互いを理解し、愛情が生まれ生徒は健全に成長すると結論づけました。

その後、助言者である山口章氏（五所川原農林高等学校校長）より、三校とも素晴らしい魂の籠もった熱い発表であったと絶賛されました。三校に共通して感じたのは、学校と家庭の間に情報の共有ができてはじめて連携ができるということであり、PTA活動のポイントは学校と家庭の

コミュニケーションである。さらに、子どもが帰属意識を持ち、絆を深めることも大事であり、PTA活動が地域と連携し、地域との架け橋となることが大切であるとして、研究協議を締めくくりました。

（調査広報委員 齋藤めぐみ）



清野コーディネーター・山口助言者

大会を終えて

五所川原高等学校渉外部主任 奈良 研一

この度の五所川原大会は、『手をつなぎ想いをつなぐPTA』すべては明日を生きる子供たちのために』のテーマで開催いたしました。とにかく事務局校担当として無事に終了できたことで一安心しております。6年振りの西北地区での開催ということで、各校とも渉外部のスタッフがだいぶ入れ替わっており、事務局を担当した私自身もこれまで他地区で開催された大会には何度か参加したことはありましたが、実際に大会運営に関わった経験が一度もなかったため、手探り状態での出発でした。

準備にあたっては、まず、昨年度の9月に準備委員会設立会（第1回準備委員会）を開催しました。笹森和樹実行委員長（五所川原高校PTA会長）、千代谷均県高P連事務局長、野村卓司五所川原高校校長をはじめ、西北地区協議会14校のPTA会長、渉外主任を中心として、6年前に開催された資料をもとに、また、前年の三八大会や26年度の弘前大会の資料も参考にさせていただきながら話し合いを持ちまして、大会の大枠を決定するとともに、大会に向けての意思統一を図ることができました。続いて、11月、3月に2回の準備委員会、4月、5月に2回の実行委員会を開催しました。会議において、細部にわたってよく見えない部分が次々と出てきて、事務局校としての準備不足を痛感させられ、他校にご迷惑をおかけすることも多々生じることもあり、申し訳ない思いと不安の中で業務に当たらせていただきました。この場を借りてお詫び申し上げます。

笹森大会実行委員長あいさつ



しかし、会議を開催する度に、実行委員の方々から多くの適切な助言や意見を出

してもらったことで、企画内容をより具体化していくことができ、修正・追加を加えながら大会の成功に向けてチーム一丸となつて企画・準備にあたっていくことができました。また、大会前日の事前準備および大会当日の本番では、各担当校が責任を持ってそれぞれの役割分担を果たし、各部門での臨機応変な対応のお陰で、無事成功に終わることができたと思っています。この大会を通して、西北地区協議会の各校の協力体制、団結力の強さを改めて認識し、事務局校担当者としては、心強さを感じながら大会運営に務めていくことができました。感謝、感謝です。

物産販売では、西北五の地元の特産物を購入していただけるよう、五所川原農林高校オリジナルの物産品をはじめ、五所川原、金木、鰯ヶ沢、中里など各地域からの出店の協力を要請したところ、6店舗に出店していただけることとなり、各地域の名産品・特産物を販売させていただきました。お土産等の購入は楽しんでいただけましたでしょうか。

今大会は、大会参加者約450名、情報交換会参加者約350名と、弘前大会や三八大会に比べ、参加者が多少減少したことは残念な感があります。事務局として、魅力ある大会にするために企画面において、もう一工夫する必要があったのではないかとという反省点が残りました。6年後の西北地区での大会には、私自身は年齢的に関わることはありませんが、今回の反省点を生かして開催できるようにしっかりと引き継いで行きたいと考えています。今後生徒数の減少に伴い、PTA会員の数も減少していくわけですが、子供たちの健やかな成長の手助けをしていくことは、これから先も変わらぬPTAの果たす役割である思い

ます。この大会等を通じて、PTA活動の意義を再認識できるように今後の大会の充実に努めていけるよう協力していきたいと思

五所川原大会にいくでくださった皆様、多くの参加をいただきありがとうございました。不行き届きの点が多々あったかとは存じますが、反省点を次回に生かしていきたいと思しますので御容赦ください。恐縮ではございますが紙面にてお詫び申し上げます。また、今回実行委員長として大会運営に御尽力いただいた笹森五所川原高校PTA会長をはじめ、西北地区協議会の実行委員や保護者の協力があつて無事に終えることができましたことに深く感謝いたします。私の勝手な想いではありますが、西北地区としてはテーマの『手をつなぎ想いをつなぐPTA』の実践がなされた大会になったと感じております。

次年度は上十三地区が大会担当地区となりますが、より多くの方々に御参加いただき、十和田大会が成功することを祈念して報告とさせていただきます。





「親子の縁、つながり」

青森県高等学校PTA連合会 会長 若宮 佳一

青森県高等学校PTA連合会会員の皆様、日頃のPTA活動並びに毎日のお子様の見守りなどご苦勞様です。本日は「手をつなぎ想いをつなぐPTA」―すべては明日を生きた子供たちのために―の大会スローガンのもとに行われる五所川原大会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。また、多くのご来賓の皆様にはご臨席賜りましたこと深く感謝申し上げます。

今年度、県高P連会長の大役を仰せつかった若宮でございます。現在、八戸高校のPTA役員をしながら三戸郡の五戸町で庭師業を営んでおります。私は仕事柄人とのつながりや縁をとっても大事にしてきました。造園にあたっては庭石の形や大きさ、庭木とのバランス、配置などそれぞれが意味をもって構成され、一つの庭が完成いたします。

私は家族も同じではないかと思っております。それぞれがお互いを尊重しながら家庭での役割を大事にし、足りないところはお互いに助け合っていくなかで家族の絆が強まっていくのだと思います。

昨年4月の熊本地震、6年前の3月に発生した東日本大震災。私たち人間はこの地球上ではいかにはかないものであるか、まざまざと経験させられました。日本という国はこのような災害があるたびに、大人たちは本気で、そしてなんとかして自分たちの力で復旧・復興させるんだという魂といえますか、姿を子ども達に示すことで成長してきたのだとつくづく感じます。親の真剣な姿は必ず子ども達の真剣な態度につながっていくのだと信じています。家族の抱える様々な問題が話題になる昨今ではあります、どうか会員の皆様には今一度、親

と子の距離と幅を見つめ、締める時と緩めるバランスを楽しみながら子育てをしていただきたいと思っています。

また、平成29年は終戦から72年、憲法制定から70年という節目の年にあたります。日本国憲法の良いところ言えば、皆さんはどんなところを思い浮かべるでしょうか？私は第26条です。「すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じ、ひとしく教育を受ける権利を有する」主権者たる国民のすべてがひとしく普通教育を受ける権利を持っているという条文です。

世界に目を向けると、満足な教育を受ける権利や機会を奪われた子ども達がさまざまな紛争に巻き込まれたり、時には加害者にもなっています。実に悲しいことです。教育の果たす役割の大きさと私たち大人の責務の重さを感じながら、子ども達の健全な成長を願ってやみません。

私たちは縁あって授かった子ども達と出会い、その出会いが家族のつながりや絆に変わっていきます。そして家族のつながりが、学校や地域でのつながりへと広がっていきます。どうぞ皆様、各学校での出会いはもちろんですが、今日のこの日の新しい出会いを大切に、子ども達とともに成長していこうではありませんか。

私も会長として高P連発展のため、精一杯頑張る所存でございますので、どうか一年間、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

終わりになりますが、五所川原大会の開催にあたり、多大なるご支援とご協力を賜りました関係各位に深く御礼を申し上げます。挨拶いたします。

(県高P連五所川原大会挨拶より抜粋)

学校への愛着あふれるPTA活動

八戸工業大学第二高等学校

こんにちは、八戸工業大学第二高等学校のPTA活動をご紹介させていただきます。本校のPTA活動は、「P（ぱつと）T（楽しく）A（遊ぼうよ）」を合言葉に、参加できるときに、参加できる人が、笑顔で参加しやすいように、いつでも誰をも迎え入れる体制で取り組んでおります。活動のポイントには学校任せ、先生方任せにするのではなく、保護者同士でビジョンや目的を考え、計画し行動することに重点を置いて活動を展開しています。その企画として、各学年・各委員会の代表者と本部役員が集まり年度の実施事項を検討するための「専門委員会」を開催し、保護者の皆さん方と一緒に企画・立案し活動しています。このようにPTA活動の目的やビジョンを明確にすること、自らが考えた計画を実行するということが「やらされている感」もなく毎年、積極的なPTA活動となっております。

主な活動の一つに朝の登校時一声運動があります。保護者だけでなく子供たちも巻き込んで一緒に活動しております。平成20年度までは、保護者だけで登校時一声運動を実施しておりましたが、保護者だけで子どもたちに声掛けするのでは、勢いと元気にかけるという意見がでて、それ以降、保護者、生徒が一緒になって実施をしています。さらに、美術コースの生徒がデザインした、マナーアップ運動の「のぼり」も登校してくる子供たちの目を惹き付け、参加した保護者はこれを片手に、「いつも笑顔で元気よく」をモットーに活動しております。その他の活動では、二高祭でのバザーの実施とカフェコーナーの出店があります。この売上金は本校の生徒達

が毎年行っている東日本大震災の被災地ボランティア活動のために寄付しています。また、子どもたちと一緒に汗を流す、毎年恒例の白神山トレッキング、母親委員会主催の研修旅行や料理教室、PTA研修会、卒業生へのコ



登校時一声運動

サージュづくり、県高P連三八地区協議会主催の研修会にも多くの保護者の皆さんが参加しております。その他、PTAの活動方針や内容を共有する場、PTAの各委員会や学校と保護者が情報を交換する場として、全学年合同保護者懇談会を実施しております。もちろん「飲み会」や「ケータリング」で先生とのコミュニケーションアップに繋がっております。

PTA活動でもっとも大事な事は、活動の目的やビジョンを明確にすること、そしてメンバーを「頼る」ことではないでしょうか？

すべては子どもたちのために、あるいは誰かのためになるということを感じながら取り組むことだと思います。子どもたちの成長と併せて保護者も成長するPTA。多くの人との出逢いの軌跡、この出逢いからチャンスを生かすのも自分自身だということと一緒に感じながら取り組むことが大切であると思います。長いようで短いこの大事な3年間を今できること、今しかできないことをしっかりと考えることで、わくわくドキドキできる有意義で素敵な活動となると信じております。

(PTA会長 柴田 一則)

テニスは人間力

青森県立田名部高等学校は、昨年、創立100周年を迎えた伝統ある下北地区の中心校である。部活動としてよく名前が挙がるものにはフエンスング部、ボート部などがあるが、ソフトテニスも、ジュニアや中学校での指導が行き届いていることもあって競技レベルは高く、活動も活発である。私が田名部高校に赴任したのは3年前であるがその時からすでに、ひたむきに練習に取り組む生徒の姿があった。ソフトテニス部に限らず、田名部高校の生徒は、何事に対しても非常に熱心である。地域に根ざす学校として、脈々と受け継がれてきたプライドというか、上手く表現することができないが、そういったものが生徒の心に秘められているように感じる。

日頃の練習メニューはすべて生徒が決めて活動している。顧問である私は、時々助言をする程度で、ほぼ生徒による主体的な練習が行われている。毎年メンバーが変わっても、自分達で雰囲気を作り、互いに支え合う光景は変わらな

頑張っています 我が部活

い。それこそが田名部高校ソフトテニス部の良さであり、最大の武器である。私は思う。そんな一生懸命な生徒の姿をみると、こちらが応援したくなる。どうにかして勝たせ

てあげたいという気持ちがかみ上げてくる。そんな気持ちでいつも練習をみている。毎日、生徒と接する中であえて課題をあげるならば県大会や上位大会で、十分に力を出し

切ることができない生徒が多いことだ。これには生徒自身の問題の他に、地域性も絡んでくるが、とにかく「やればできる」という自信と、勝つ経験を積ませたいと考えている。苦労している点は練習試合を組むことだ。地域的なハンデもあり、なかなか思うようにはいかないが、それでも生徒は少ない経験の中で多くのことを吸収し、成長してくれている。

「テニスは人間力」。テニスに限らず、高校スポーツ全般に言えることだが、コートの上では、その人間の持つ力の全てが発揮される。私自身も先輩教員からそのことを教わってきたが、その意味がようやく実感できるようになってきた。テニスが上手いから勝つのではない。勝つための要素は技術以外にもたくさんあるということ。今後、生徒に伝えていきたい。最近、男子は東北大会に出場する機会が増えてきた。女子も日々練習に励んでいるが、まだまだ伸ばせる部分はある。私も生徒との関わりの中で、一人ひとりの生き方に目を向け、共に学び、生徒の人的な成長を見守ってきたい。

(田名部高校 ソフトテニス部顧問 黒滝 亮)



校 盟 加 紹 紹

「開校をむかえて」

青森県立八戸高等支援学校 渉外部 能澤 大輔

平成29年4月12日に開校式を迎えました八戸高等支援学校は、八戸第二養護学校の高等部が分離し、普通科と産業科を併設した高等部単独の知的障害特別支援学校です。特別支援学校としては東北で最大規模の生徒数で手狭になった八戸第二養護学校の校舎から引っ越し、旧八戸南高等学校の校舎を改修し、ゆとりある広々とした中で、のびのびと教育活動が行われています。

本校周辺には朝市で有名な館鼻漁港や燕島があります。校門から道路を隔てた南西側には広々とした太平洋牧場があり、母親に寄り添う可愛い子馬も出迎えてくれます。また、夜には鮫角灯台が広大な太平洋を照らし、遠くから潮騒の音も聞こえます。このように風光明媚な場所に移転した本校は地元、鮫地区のみならず温かく見守っていただき、生徒たちの笑顔も自然にこぼれています。

さて、八戸高等支援学校PTAは5月2日の総会をもって正式に発足し、今年度の活動について委員会ごとに計画が立てられ動き出しました。

学校の施設、行事等の教育活動の様子がこれまでと大きく変わり、地域との関わりを含めてPTAへ求められることや、在り方を深く考えなければなりません。

それぞれの学校には歴史があり、その学校独自の校風やPTAの在り方があるものですが、開校3ヶ月あまりの本校はいまだ手探りの状況が続いています。

しかし、新たな歴史を築き上げていく「生みの苦しみ」はなかなか経験できるものではありません。PTA会員のみなさま

の協力のもと、土台となる組織作りや運営方法について、具体的に考えながら一歩一歩進めていく事は難しさもありますが、保護者の皆様のご協力です。少しずつ着実に固まっています。

十年、二十年先の周年行事において、今の時がどのように見えているか、皆目見当が付きませんが、そのときの教職員、保護者、生徒が笑顔でいられるようなPTAを思い描いています。

たくさんの方々の特支援教育への思いを受け、八戸高等支援学校が開校するまで、お力をいただいた方々に深く感謝し、青森県高等学校PTA連合会のますますの発展を願い、新規加入のご挨拶とさせていただきます。これからよろしく願います。



開校式・入学式

平成29年度 一般会計予算

収入総額 12,902,500円
支出総額 12,902,500円
差引残額 0円

収入の部 (単位: 円) 支出の部 (単位: 円)

科 目	予算額	科 目	予算額
会 費	8,465,000	事 業 費	6,605,000
内 学 校 割	1,355,000	助 成 費	225,000
	80,000	組 織 活 動 費	2,700,000
	1,025,000	研 修 ・ 行 事 費	1,500,000
	250,000	負 担 金	1,220,000
会 員 割	7,110,000	表 彰 費	220,000
県 立 ・ 全 日 制	6,000,000	会 報 費	740,000
私 立 ・ 全 日 制	1,050,000	運 営 費	5,470,000
定 通 ・ 特 別 支 援	60,000	会 議 費	480,000
助 成 金	500,000	旅 費	2,300,000
繰 越 金	3,437,081	印 刷 費	300,000
雑 収 入	419	事 務 費	400,000
受 取 手 数 料	500,000	通 信 運 搬 費	260,000
内 自 転 車 総 合 保 険	250,000	渉 外 費	200,000
訳 高 校 生 総 合 保 障 制 度	250,000	慶 弔 費	60,000
合 計	12,902,500	人 件 費	1,350,000
		使 用 料	70,000
		雑 費	50,000
		租 税 公 課	120,000
		繰 出 金	100,000
		予 備 費	607,500
		合 計	12,902,500

平成29年度 特別会計予算

収入総額 9,104,000円
支出総額 9,104,000円
差引残額 0円

収入の部 (単位: 円) 支出の部 (単位: 円)

項 目	予算額	項 目	予算額
繰 越 金	9,003,281	助 成 金	0
繰 入 金	100,000	特 別 支 出 金	0
雑 収 入	719	予 備 費	9,104,000
合 計	9,104,000	合 計	9,104,000

平成29年度 委員会名簿

委員会名	役 名	氏 名	所 属 校 名
健 全 育 成	委 員 長	中 野 真 弓	八 戸 西
	委 員	東 雅 博	青 森 商 業
	副 委 員 長	溝 江 葉 子	弘 前 学 院 聖 愛
	委 員	今 広 樹	五 所 川 原 商 業
	委 員	古 舘 至	七 戸
進 路 対 策	事 務 局 長	安 部 昭 宏	八 戸 西
	委 員 長	世 永 恵 美 子	五 所 川 原 第 一
	委 員	高 谷 裕 実 子	青 森 明 の 星
	副 委 員 長	今 井 武	柏 木 農 業
	委 員	石 川 緑	名 久 井 農 業
調 査 広 報	委 員	川 岸 均	大 間
	事 務 局 長	中 村 甲 吉	五 所 川 原 第 一
	委 員 長	畑 中 了	む つ 工 業
	委 員	福 士 好 子	青 森 北
	委 員	赤 石 佳 子	弘 前 実 業
研 修	副 委 員 長	長 瀬 純 子	八 戸 学 院 光 星
	事 務 局 長	三 上 直 樹	板 柳
	委 員 長	三 上 香 織	青 森 東
	委 員	澤 田 富 士 子	弘 前 東
	副 委 員 長	横 道 志 穂	八 戸 工 業
	委 員	成 田 貴 春	五 所 川 原 工 業
	委 員	小 笠 原 孝 子	七 戸
	事 務 局 長	三 上 浩	青 森 東

平成29年度 役員名簿

役 職 名	氏 名	所 属 校 名	備 考
会 長	若 宮 佳 一	八 戸	
副 会 長	中 村 美 津 緒	青 森 西	次年度会長予定
	工 藤 正 興	青 森 北	東青地区協議会長
	木 村 龍 悦	弘 前 東	中南地区協議会長
	橋 本 修 弘	八 戸 工 業	三八地区協議会長
	笹 森 和 樹	五 所 川 原	西北地区協議会長
	竹 内 貴 之	七 戸	上十三地区協議会長
	大 見 竜 人	む つ 工 業	下北むつ地区協議会長
	成 田 昌 造	青 森	県高校長協会推薦
	松 野 洋 祐	青 森 東	〃
	高 谷 悟	八 戸 工 業	〃
理 事	柴 田 一 則	八 戸 大 第 二	私立高校保護者会推薦
	敦 賀 定 彦	青 森 商 業	
	村 田 秀 俊	弘 前 東	県高校長協会推薦
	赤 坂 寿 章	八 戸 大 第 二	各地区1名
監 事	山 口 孝 之	五 所 川 原 農 林	
	佐々木 孝 之	七 戸	
健 全 育 成 委 員 長	三 浦 和 馬	板 柳	西北地区協議会
	飛 内 文 代	北 斗	県高校長協会推薦
進 路 対 策 委 員 長	中 野 真 弓	八 戸 西	三八地区協議会
調 査 広 報 委 員 長	世 永 恵 美 子	五 所 川 原 第 一	西北地区協議会
研 修 委 員 長	畑 中 了	む つ 工 業	下北むつ地区協議会
顧 問	三 上 香 織	青 森 東	東青地区協議会
	大 溝 雅 昭	弘 前	前会長

青森県高P連事務局

事 務 局 長	千 代 谷 均	安全互助会事務局長
事 務 局 次 長	原 田 豊 則	安全互助会事務局次長
事 務 主 任	今 美 智 留	

編集後記

平成29年度青森県高P連五所川原大会に参加し、大会テーマ『手をつなぎ思いをつなぐPTA～すべては明日を生きる子供たちのために～』について、あらためて考えました。親と親のつながり、生徒と生徒のつながりが、高校教育のみならず社会に出てからの関係にもつながっていくことを実感する機会となりました。スピード感と迫力いっぱいの生徒発表はすばらしく、記念講演や各地区の研究発表は大変勉強になりました。今年度、平成29年度調査広報委員みんなで協力して、広報紙「つながり」において様々な情報を発信して参ります。ご協力よろしくお願いします。

(調査広報委員長 畑中 了)





平成29年度 収支予算書

■収益の部

(単位：円)

科	目	予算額
経常収益		20,535,000
うち会費収入		20,235,000
うち雑収入		300,000
経常外収益		0
収益の部合計 (a)		20,535,000

■費用の部

(単位：円)

科	目	予算額
経常費用		24,152,000
事業費		20,878,200
うち学校安全普及事業費		600,000
うち共済金等給付事業		10,501,000
その他の事業費		9,777,200
管理費		3,273,800
経常外費用		0
費用の部合計 (b)		24,152,000

(単位：円)

正味財産期首残高	142,153,602
当期増減額(a) - (b)	-3,617,000
正味財産期末残高	138,536,602

平成29年度 事業計画

- ◆ 学校安全の普及充実事業…講習会・研修会の開催や共催、後援
 - ◆ 共済金の給付…死亡共済金・後遺障害共済金・負傷共済金・香料
 - ◆ その他目的を達成するために必要な事業
- 安全互助会だより49・50号発行、安全互助会運営のPR活動、各種事業への助成等

平成29年度 役員名簿

■理事・監事

職名	氏名	所属
理事長	住吉 治彦	前青森県高等学校PTA連合会顧問
理事	成田 昌造	青森県高等学校長協会会長
理事	安達 健夫	青森県立青森中央高等学校長
理事	敦賀 定彦	青森県立青森商業高等学校長
理事	大溝 雅昭	青森県高等学校PTA連合会顧問
常務理事	千代谷 均	青森県高等学校安全互助会事務局長
監事	須崎 正輝	元青森県立金木高等学校PTA会長
監事	三浦 輝行	青森明の星短期大学教授

■評議員

職名	氏名	所属
評議員	西澤 ナミ子	前八戸学院光星高等学校PTA会長
評議員	益川 毅	三本木高等学校PTA会長
評議員	太田 清貴	元青森商業高等学校PTA会長
評議員	太田 宏暁	東奥義塾高等学校教諭
評議員	下山 美智子	五所川原商業高等学校長
評議員	下山 昌一	元青森西高等学校渉外主任

平成28年度 事業報告

1 学校安全普及充実事業費	1,213,262円
(1) 地区協議会 安全教育活動費	513,262円
(2) 青森県高等学校体育連盟	200,000円
(3) 青森県高等学校文化連盟	200,000円
(4) 青森県高P連安全教育活動費	300,000円

2 共済金等給付事業費	15,028,235円
(1) 死亡共済金	0件 0円
(2) 後遺障害共済金	0件 0円
(3) 負傷共済金	3,769件 14,928,235円
(4) 香料	2件 100,000円

3 その他事業費	577,460円
(1) 安全互助会だより47号	202,700円
(2) 安全互助会だより48号	201,960円
(3) 安全互助会の手引き	64,800円
(4) 新入生保護者用リーフレット印刷代	108,000円

青森県高等学校安全互助会加入生徒数	
全日制	34,507名
定時制・特別支援学校	1,204名
通信制	420名
総数	36,131名